

会報

No. 104

令和3(2021)年3月15日

https://www.library.pref.kyoto.jp/?page_id=28

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町

京都府立図書館内

TEL (075) 762-4655

＜目次＞

1 面

- ・オンラインで音読教室してみた！
(京都市中央図書館)

2 面／3 面

- ・中部研修参加報告(京都市岩倉図書館)
- ・暮らしに読書を、貸出セットをはじめました。(福知山市立図書館)
- ・“海のみえる図書室”丹後図書室が移転オープン！(京丹後市立あみの図書館)

4 面

- ・笠置町図書室の移転について
(笠置町図書室)

オンラインで 音読教室してみた！

京都市中央図書館

上級主任司書 福田はる奈
主任司書 井山 暁子
主任司書 奥田由紀子
専門主事 岸野 俊彦

「あたまいきいき音読教室」

対面からオンラインへ！

「あたまいきいき音読教室」は、京都市の「認知症バリアフリー」推進の一環として三年前にスタートしました。当館で初めてのシニア対象事業を手がけることになり職員も手探り状態でしたが、参加者と共に試行錯誤しながら回を重ね、名物行事の一つになりました。ところが、突然のコロナ禍で開催の見通しがたなくなり、職員一同、代替案を模索していたところ、オンライン授業やオンライン飲み会など世間的に話題になっていたアプリ「ズーム(Zoom)」を活用してできるのではと提案があり、早速準備にとりかかることになりました。

音読教室の再開に向けて！

いざ始めてみたものの、ズームを実際に使ったことがある職員が意外と少なかったため、練習も兼ねて職員同士で何回か試行してみました。ズームの操作自体は「習うより慣れよ」でなんとかかなりそうでしたが、当館ではLANケーブル

が敷設されている場所が事務室に限られ、通常業務の傍らで実施せざるを得ないことがわかりました。電話や職員の話し声などノイズをできるだけカットするため、パソコンの周囲を衝立で囲ったり電話の着信音量を下げたりと様々な工夫をしました。

次に、参加者募集も苦しかったです。館内のポスターやチラシで広報しましたが、慣れないパソコン操作を敬遠してか当初の応募状況はあまり芳しくありませんでした。そこで、これまでの参加者や高齢者施設、職員の家族や友人などに声をかけて、本番ギリギリに開催の目途がつかしました。

オンライン音読教室の特徴

オンライン音読教室は、司会、講師(テキスト作成と解説)、ズームの操作担当で進みます。テキストには、青空文庫などの著作権フリーの作品群から図書館がオススメする日本文学の名文を掲載し、大きな文字やわかりやすいフォントを使い高齢者に画面上でも見やすいように工夫しています。また、ズームが無料で使用できる時間が四十分間と限られているため、テキストの分量や構成にも気



を配りました。

課題山積！三度目の正直

準備万端のつもりで本番に臨みましたが、参加者がスムーズに入室できない、音声や画像が突然切れる(二回目・九月、予定より早く時間切れになる(二回目・十月)、狭い事務室内で複数のパソコンがハウリングを起こすなど音読教室の進行が度々中断する手痛い失敗が続きました。

そこで、一回目の失敗を教訓として、リハーサル日を設定し、操作に不安のある方に対して、音量の調節や画面の切替方法など、つまづきそうなポイントを丁寧にお伝えするようにしました。また、二回目のようなトラブルに備えて、事前に本番用以外にズームの予備の「会議室」も準備しました。

かねてから課題であったハウリングについても、見かねた庶務担当者が、厳しい予算状況の中、なんとか工事費を工面し、館内の一室に新たにLANケーブルを配線できました。こうした改善を積み重ね、三回目(十二月)で、ようやく主催者も参加者も安心して音読教室に取り組めるようになりました。参加者



の評判も良く次回（四回目・三月）への期待も膨らみました。

オンラインの意義、そして今後の展望

オンライン音読教室を開催してみても、「離れていても、知らない者同士でも、図書館を介してつながることができ」という確かな手応えを掴みました。とくに、高齢者施設から参加を得られたことは、うれしい驚きでした。外出や施設内での活動もままならない入所者の方々に図書館サービスを届けられるのは、オンラインの長所です。一方で対面の音読教室のように参加者同士の親睦を深めることには向いていません。このような対面とオンラインの長所と短所を十分把握し、場面に応じて上手に使い分けながら今後の図書館サービスに活かしていきたいと思っています。

中部研修参加報告

京都市岩倉図書館 大道 紀恵

立誠図書館は、京都の繁華街の真ん中にある私立の図書館です。最近、様々な広報誌に話題のおしゃれスポットとして取り上げられています。コロナ禍においても「絵本ライブ」等のイベントを積極的に開催されるとともに、「Page3」という、著名なゲストとの対談やレファレンスコーナー等、興味深い内容の機関誌も発行されています。一体どのような

人達が、どのような思いで運営されているのか、とても興味がありました。

今回の研修は、講演会、「ディスカッション」、施設見学の三部構成になっていた、参加型の充実した研修内容でした。

まず、講演会は「立誠図書館三年生！もっと、つながる図書館をめざして」と題して、立誠図書館を運営されている「一般社団法人まち」の普照大督氏、石橋美樹氏、栗山万葉氏の三名にお話をいただきました。歴史ある京都市立立誠小学校が閉校となった後、自治連合会が中心となって文化的な催しを実施するなど、廃校施設を利用した地域の活性化に取り組んでこられたそうですが、建物の老朽化に伴い、跡地活用を業者と共同して進めていくにあたり、自治連合会では困難なこともあったそうで、一般社団法人を設立されたとのことでした。また、「もっと、つながる」をテーマに、ゲートホテル京都高瀬川との連携事業や、機関誌「Page3」の作成のコツ、「絵本ライブ」の実施方法などについて、お話をいただきました。「絵本ライブ」については、夜の町のイメージ



がある木屋町を、子どもも気軽に訪れる町にしたいという思いから始められたそうで、毎回とても盛況とのことでした。

次のディスカッションでは、「つながる」をテーマに、本研修会に参加された図書館から取組事例等をお聞きすることができました。現在のコロナ禍の状況でも、すでに学校連携を再開し、「おはなしキャラバン」を実施している城陽市立図書館のお話しは励みになりました。また、多くの図書館がSNS発信をしておられるとのこと、「どのSNSが図書館イベントに対して有効であったか」「SNSによって使用する年齢層が違う」というご意見は、とても参考になりました。「イベントのリピーターを増やす工夫を教えてください」という質問に対して、立誠図書館の方から、「不定期であった行事日程を定期的に実施すること」や、「予約制にし、毎月一日に情報を出して予約の受付をしていること」、「参加者への積極的な声かけ」など、実践を通した具体的なアドバイスをいただきました。

最後に、会場を移動して、立誠図書館の見学をしました。正直、とても小さな図書館で驚きましたが、スタイリッシュで本の並べ方も美術品の展示のように余裕があり、とても居心地の良さそうな雰囲気でした。施設の中央には読書もできる広い芝生があり、天気の良い日に芝生に寝転がって本を読むのは、とても気持ち良さそうでした。また、敷地の四隅には「キッズ」「アート」など、テーマごとの「かどうこ図書館」があり、ひとつひとつ見学しました。回遊性を高めるために配置されたという、とても小さな図書館ですが、この小スペースにステキな試みをするのは、発想がとても豊かだと思いました。「つながる」ことを大切に、様々な工夫をされている立誠図書館のお話しは、初心に帰る思いがしましたし、ディスカッションでの各図書館のご意見はとても参考になりました。今後の図書館運営に活かしていきたいと思っています。



暮らしに読書を、貸出セットをはじめました。

福知山市立図書館 中嶋 善彦

京都府にも二回目の緊急事態宣言が発令され、府内公共図書館では、引き続き館内での消毒・換気など安心安全な利用環境整備に奮闘されていることと思います。当館においても、安心して図書館を利用していただけよう日々改善しながら

ら、感染予防に努めています。今回は、新型コロナウイルス感染防止に関連する補助金を活用して整備した新たなサービス「暮らしに読書を、おうえん貸出セット」についてご紹介します。

前号でご紹介した、昨年三月の緊急事態宣言発令時に市内の小学校、放課後児童クラブ等を対象に実施した「緊急貸出セット」については、大変好評をいただきました。あらかじめセットされており、選書する時間が短縮できること、長期間の貸出が特に喜ばれました。

今回の新たな貸出セットは、児童施設に加え、子育て世代、高齢者という図書館へ来館することが困難と思われる大人世代にも活用いただけるよう対象を拡充。

一セット約五十冊で、小学生までを対象とした年齢別の子ども向けに四十五セット（絵本・読み物・しらべ学習・学習まんがなど）、大人向けに二十五セット（子育て・文芸・実用など）、合わせて七十セットを準備し、貸出期間は少し長めに二か月間にしました。図書はすべて貸出セット専用にした



に購入したものです。

セットのテーマ設定・選書、新たなサービスのため閉架書庫の確保やシステムの改修、申請・受渡し方法など検討を重ね、特に選書は職員総出で分担。大人向けの書籍は絶版も多く思うようにセットが揃わず、ひと苦労でした。

自宅で過ごされる時間も多くなり、より気持ち豊かに生活できる支援としてお近くの施設で気軽に本と出会えること、同時に図書館の密集を防ぎ、読書による外出抑制効果も期待でき、今まさに必要なサービスだと考えています。

そしていよいよ一月十四日からサービスを開始し、特に子ども向けのセットは好評で放課後児童クラブ、小学校を中心に開始から十日ほどで準備したほとんどが貸出されました。また、大人向けも、公民館や地域のサロンで、少しずつ浸透しています。まだ始まったばかりですが、市内のあちこちに小さな図書館ができて本がそばにある暮らしを楽しんでいたできるよう、今後も長く利用いただけるサービスにしていきたいと思っています。



「海のみえる図書室」 丹後図書室が 移転オープン！

京丹後市立あみの図書館 田辺 聖子

令和二年十月三十日、京丹後市立丹後図書室が、「海のみえる図書室」として市役所丹後庁舎三階に移転オープンしました。

それでは図書室の中を少し案内しましょう。



三階でエレベーターを降りると、まず「海のみえるホール」が広がります。左手の窓側には閲覧席が並び、窓からは日本海、そして観光スポットの立岩も眺めることができます。

中高生や大人の方もこの閲覧席で長時間過ごされる方が増えました。奥の壁には展示スペースもあり、現在は絵本原画を展示しています。

正面には壁で仕切られた図書室があります。壁の一部が窓ガラスになっている

ので、手前の受付カウンターからも中の様子が見えます。ちなみにこの窓ガラスは、だれでも自由に絵を描くことができる「おえかきコーナー」になっています。このコーナーは子どもたちに大人気で、いつも楽しい絵でいっぱいです。また、図書室の絵本コーナーはつみ木のかたちをした書架を使用し、親子や友達同士で楽しく絵本を読むことができます。書架の間も広くなり、ベビーカーや車いすの方も利用しやすくなりました。閲覧席も、児童用と一般用それぞれにテーブルがあり、ゆつくり調べものもできるようになりました。

図書室のある丹後町は、京丹後市中心部から離れた日本海沿いにある地域です。旧図書室の建物が耐震基準を満たしておらず使用できなくなったことや、平成三十年二月の図書館協議会からの答申の中に、丹後図書室は「市民の利便性を考慮し、分館として維持する必要がある。施設の広さ、老朽化等については改善に向けて検討すること」とあったことから、検討の結果、今回の移転となりました。

「新たな人・知識・情報との出会い、共に学び集う憩いのスペース」を基本コンセプトのもと準備を進めましたが、短期間での準備ということで、大変なことたくさんありました。しかし、地域の方々も新図書室の完成を楽しみにしてくださり、引越しやオープン準備を手伝っ

てくださる方、館内にイラストを描いてくださる方、多くの方々にも協力していただき、無事にオープンを迎えることができました。

今後も、基本コンセプトにもありますように、皆さんの憩いのスペースとなるように努めていきたいと思えます。

近くにお越しの際には、「海のみえる図書室」丹後図書室にもぜひお立ち寄りください。

■開館時間…午前十時～午後六時

■休館日…毎週月曜日

(祝日の場合は火曜日)

毎月一日

(その日が土・日の場合は火曜日)

年末年始(十二月二十八日～一月四日)

蔵書点検期間



笠置町図書室の 移転について

笠置町図書室 永田 紗瑛

笠置町図書室は令和元年九月に笠置町中央公民館の一室から同町内の施設である、笠置町産業振興会館内に移転し、新たにスタートしました。

移転のきっかけとなったのは、笠置町中央公民館が耐震基準を満たしておらず老朽化も進んでいたためです。移転前の図書室は暗くて湿気も多く、本にとっても利用者の方にとっても決してよい環境ではありませんでした。そのため新しい場所への移転が決まった時は、期待も膨らみました。

新しい図書室の移転先として決まったのが笠置町産業振興会館です。当初はその施設の一室を図書室に考え、笠置町役場と笠置町図書室を運営している相楽東部広域連合教育委員会との協議が進みました。しかし、施設内には適した広さの部屋が無く、最終的に一階のロビーにオープンスペースのような形の図書室とする方向で決定されました。もともとそのスペースは喫茶として使用されており、そのスペースの半分を譲っていたいただきました。

そんな形で移転準備が進む中、一番大変だったことは「時間が無かった」ことです。移転の為に与えられた時間は移転

当日の前後三日間、その期間に新しい図書室に持って行く本、置いていく本の選別、持つて行く本の詰め作業、開封、配架とすべてをこなすのは困難でした。もとも小さな図書室で本も多くはありませんが、人員もまた多くはないのです。短い時間でできる限りの移転作業を終えました。古い図書室に置いていった本は一年たった今でもそのままになってしまっており、今後どのように処理するか課題となっています。

また、また課題もありますが、やはり移転したことによる利点は大きく、以前とは比べ物にならないほど明るく、利用者の方にも気軽に訪れていただける図書室に生まれ変わりました。今までは図書室の存在すら知らなかった住民の方々にも利用していただけるようになり、貸出数も倍増しました。また、今までは本を借りるために来られる利用者が大半を占めていましたが、駅前に移転したことにより、電車やバスを待つ方にもお越しいただくなど、住民の方のくつろげる場という意味合いも図書室が持ち始めました。

場所が変わったことにより、今までできなかったことをやってみようということにもなりました。今までスペースが無く導入していなかった雑誌購入の検討、児童向けのお話会、ブックスタートなど、他の図書館や図書室では当たり前のように行われていた事業が実施できるようになりました。おそらく他館からは

小さな変化のようにも見ええると思います。これは笠置町図書室にとっては大きな進歩なのです。

最後に、笠置町は人口およそ千二百人と非常に少ない自治体です。それは図書室を運営する上で大きな課題でもありますが、強みでもあると言えます。図書室に来ていただく利用者の方々はみんな知り合いという非常に利用者との距離が近い図書室です。その強みを活かして一人一人に寄り添う事で、より満足度の高い図書室を目指したいと考えています。

今回、笠置町図書室移転について考えるきっかけをいただいたことで、笠置町図書室は移転していい方向に進み始めた。と改めて気付くことができました。この流れを止めることなく、より利用者の方にとって利用しやすい図書室となるように努力を続けていきたいと思えます。



Ⅱ会報はホームページに掲載Ⅱ

京都府図書館等連絡協議会のホームページに過去の会報も掲載しています。御利用ください。